

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 10 月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100397		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂山根		
所在地	〒732-0002 広島市東区戸坂山根1-1-19 (電話) 082-220-2050		
自己評価作成日	平成30年9月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100397-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成 30年10月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者様の日々の生活・身体状況などの変化を把握し、毎日の生活が「その人らしい」また「ここにきて良かった。」と思って頂けるように、その人が望む生活が送れるように、ご家族とも密に連絡を取り合いスタッフと共有し支援している。また、体調に変化が見られた時には、訪問看護・医師に報告を入れ指示を仰ぐなどの連携を取り対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

新しく「ハッピーライフクリエイター制度」を取り入れたシステムなど、前向きなその人にとっての幸せ感を大切にケアに取り組んでいる。母体が医療法人であり、医療・看護・介護のトータルな視点から、利用者一人ひとりの生活機能の維持を図り「出来ること・持ち味」を生かしつつアクティビティを取り入れ、より良く暮らす工夫に努めている。法人での人材育成や教育・研修制度などが充実する中、職員の働きやすい環境づくりに努め、家族・利用者の安心と共に個々の幸せを形にできるサービスに向けてクオリティーアップを目指し、たゆまぬ努力を重ねている事業所である。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と「生活づくり10カ条」を各職員が認識することでご利用者に反映した介護を目指すために努力し実践している。	法人理念（ミッション・ビジョン・バリュー）や細分化された行動指針を念頭に置き、毎朝礼時に唱和し、その意図するところに立ち返りつつ日々のケアに活かしている。個人目標としてもチャレンジシートに明記し三か月ごとに見直しを行い、スキルアップと共に意識統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーでの買い物・散歩・喫茶等、利用者が地域に出る機会を設けるようにしている。また認知症カフェ等に出向く事で地域の方々との交流の場を増やせることを実践している。	町内清掃に参加したり、公民館まつり・そうめん流しなど地域の催しに出向き交流を重ねている。近所のスーパーでの買い物やデイケアに通う利用者もいて、町内会長の協力を得ながら更に地域との絆を深めようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人内の研修や実務者研修に積極的に取り組み事業所自体のレベルアップを目指し地域からの相談や見学に来られた方に、誠意をもって対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ご利用者、ご家族、地域の他施設、地域包括支援センター等の方々との意見交換、情報交換を行なっている。それを基により良いサービスを提供できるように取り組んでいる。	隔月開催の当会議には、利用者・家族、地域・行政関係者及び近隣の福祉施設代表者などが参加し、状況や行事報告ほか活発に意見交換している。特に防災対策について地域と共に考え見解をひろめ、双方の意識向上に活かした集いとなるよう目指している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が、認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地区の認知症カフェに参加し様々な意見交換をすることで連携を深めることに努めている。	運営推進会議での意見交換はもとより、日頃から手続き・相談などで密に連携している。役所の窓口に出向き書類提出することで関係を深めるほか、職員がオレンジプランに関する講座の講師も担い、地域の認知症カフェに参加するなど情報交換や交流の輪をひろげ、地域活性化につながる活動を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に係る事業所内や外部の研修に参加し重要性について周知徹底している。ご利用者の思いに真摯に向き合っており、ご利用者がいつでも外へ出ることができる環境を整え職員がいつでも寄り添い安全かつ安心となれるケアであるよう努めている。	法人内外の研修やマニュアルに基づき、身体拘束廃止に向けた適正化や見直しに努めている。離床センサー使用はあるものの、個々の自由を奪う事無く、よりいっそうの安全確保に留意し見守りによる寄り添う支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修に参加し細かな気づきを常に報告する体勢を取ることで見過ごしないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の理解を深めることで今後においての必要性和制度を理解した上で取り組めるようにしたい。(研修等も実施する)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約者を提示し、契約の締結、解約、改定について具体的に説明している。また入居後についてもご家族からの疑問点等誠意を持って対応しご理解できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者、ご家族様の意見や要望に親身に聞き入れそれを反映できるよう取り組んでいる。また電話時や面会時などにご利用者の様子をこまめに報告でき個別の外出や外泊等の要望にも可能な限り協力し対応している。	家族との良好な関係構築に重点を置き、こまめな対応や電話連絡・お便りなどの取り組みで信頼性を得つつある。なんでも話し合える関係づくりに留意し家族他の安心感につなげ個別ケアに活かしている。貴重な意見は集約検討し「ここに居たい」と思えるサービスや運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議に参加することで法人内としての取り組みを各職員に周知徹底できるようにしている。また各フロアでのカンファで職員の意見交換を行いそれを反映することでより良いサービスを提供できる事に努めている。	法人との連携プログラムにより毎月基本情報を得て、各職員に行き渡るシステムがある。各フロア会議で気付きや課題について話し合い、個人面談での意見も取り入れサービスの改善へつなげている。マイスター制度や教育研修でスキルアップを図り職員のモチベーション維持に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内で評価基準が明確にあり、職員個々の努力により給与水準や、役職等向上することができるようになっている。(法人内にての労務に関する研修あり)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内には教育研修部があり、ご利用者との向き合い方や状態に応じた介助方法などの研修があり、それに参加することで各職員のレベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携を密に行い、情報交換等の連携を図っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面談時にはご本人の不安や要望を聴くことに重点を置き、またこれまでの生活スタイルを可能な限り維持できるよう協力することをお伝えし信頼関係を構築するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時から細かなモニタリングを行い、ご家族の困っていること、不安、要望をしっかりとお聴きし安心して任せれると思って頂くことで信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	電話や面接時の相談にはご本人やご家族のニーズを把握した上で最善となれるサービスを提案し行っている。また単にこの事業所を勧めるのではなく他のサービスの提案・紹介をし選択肢ができるよう行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護者本位ではなく利用者本位として接しできることは一緒に行いどんな時でも寄り添う事を心がけ「共にある」という事を大切に支えあうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したら在宅へは戻れないという考えをなくし、時には家族との外出や外泊をお勧めし共に支えあう思いを伝えている。また外出時・外泊時の注意点を記入したシートを作成しお渡しすることで安心して外へ出かける事を認識して頂いている。その際できる限りの援助を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の知人・友人の来所時には職員は暖かく出迎え、いつでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また馴染みの場所へと外出する際は職員が付き添い対応できるようにしている。	面会時やボランティアなどの来訪時に訪れやすい雰囲気づくりに努め、馴染みの関係性をつなぐ創意工夫を重ねている。学生時代の友人や元近所の人などが気軽に訪れ、心弾む機会となるよう配慮している。職員と共にドライブで懐かしい場所へ出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>ご利用者同士の関係性を理解し食事の席やコミュニケーションを円滑に行えるよう職員が間に入り関係性を持つるようにしている。また孤立しないよう常に寄り添うことも心がけている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>これまでに事例はないが今後在宅復帰されるご利用者がいれば安心した生活が送れるよう相談事やフォローできる環境をととのえていきたい。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご利用者本位の意見を尊重し会話や要望をできる限り取り入れ実現できるよう全職員で取り組んでいる。</p>	<p>状態レベルシートや個別記録に、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取り理解した内容を記載し、職員間で共有している。帰宅願望や外に出たい思いには散歩して気分を変えるなど工夫し、各々のライフスタイルや個性を大切に支援に取り組んでいる。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>ご利用者に各職員担当をつけ入所に至る経緯や生活歴を把握し、ご本人の話を基にライフストーリーを作成している。入居後に得た情報はそこに付け加え職員全員が周知できるよう努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>心身の状況に対し法人内の状態レベルシートを活用し各職員が現状を把握できるよう努めている。また身体的・精神的に不安のある方は医療と連携することで問題解決ができるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成にはご本人とご家族を交えカンファレンスを行い、意見・要望に沿った計画を作成できるようにしている。また毎月に各担当者によるご家族へのモニタリングを行い意見を伺い現状をお伝えして改善点があればカンファレンスを行いより良い介護計画とされるよう取り組んでいる。</p>	<p>担当スタッフが日々知り得た情報などを基に、家族・本人・医療関係者と協議し介護計画を作成している。短時間の運動・歌を歌う・しりとりをする等、利用者の持ち味を活かした内容を組み込み、生活機能向上に向けたプラン作りに努め毎月のモニタリングにより見直しを行なっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は全職員出勤時に確認し各利用者の状態を把握できるようにしている。必要に応じて個別記録を参考にしながら改善点を抽出し介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>全体往診・訪問看護・歯科往診など医療と密に連携し介護現場のケアに生かしている。またその他外部からの助言を貰いながら柔軟なサービスを提供できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の医療・消防・警察と連携を図り、安心して安全な生活が過ごせる様にしている。また近隣の理髪店やタクシー会社、コンビニエンスストアにグループホームを知って頂いているので緊急時には支援して頂ける関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所以前のかかりつけ医を把握しておりご本人やご家族の希望に沿った受診が行えるようにしている。</p>	<p>法人ドクターを主治医とする利用者がほとんどで、定期的な訪問診療や訪問看護により健康管理をしている。急変時や入退院時の迅速な対応を心掛け、利用者・家族の安心第一に取り組んでいる。服薬管理・感染症予防対策への意識を職員間で高めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と連携し24時間の電話連絡ができる。体調変化や急変時には適切な看護や受診がいつでも受けられる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には迅速なサマリーの作成を行い病院側との適切な情報共有ができる様になっている。またその時には看護職員が付き添い急変時の説明をしている。入院時の間もいつでも情報共有ができる体勢になっている。退院時には管理者がカンファレンスを行いスムーズな退院につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご本人、ご家族から意思を伺い終末ケアを行っている事をご説明している。主治医の判断で終末期ケアへの移行が必要になった場合はご本人、ご家族、医師を交えて話し合い今後の治療方針、ケア内容をご説明し承諾をへた後、終末期ケアに臨んでいる。	終末期における指針があり、重度化した場合はその都度家族等とよく話し合い、各々のニーズに沿った支援に取り組んでいる。最期までその人らしく過ごせるよう寄り添うケアに心がけ、医療関係者共々チームアプローチの充実を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年一回管轄の消防署に協力していただき救命講習を開催し参加している。法人内の医療、看護より指導、助言を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署職員、防犯会社の立会いの基、年2回避難訓練を実施している。主に初期消火、避難誘導を行い実施後指導、助言を受けている。また防火管理者による日ごろの避難経路や防火点検を行い確認している。各職員が有事には誰でも行動できるよう指導を行っている。(近隣を交えての避難訓練予定)	定期的な防災訓練をはじめ、様々な災害に対する正しい避難方法や利用者の誘導法について職員間で意識を深めている。救援備品・水・簡易食などのローリングストック活用法や、緊急時対応マニュアルの見直し・連絡網の確認など更に安全対策を強化する姿勢がある。	地域とのつながりや災害時における協力体制を深めるために、今一度見直しを行ない防災・減災対策について近隣住民の協力が得られるような取り組みに期待します。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者の一人ひとりの性格を把握した上で言葉掛けは十分配慮している。トイレや浴室前にはカーテンを設置し外から見えない様プライバシーの配慮をしている。	個々の生活パターンや趣味趣向を大切にしたサイクルの中で、時と場合に応じた言葉掛けや居室での着替え時にはドアを閉めるなど、その人を尊重し礼節を保つ支援への意識付けに留意している。職員間でお互いに気付き合える関係性を育んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活を過ごす上ご本人の思いや希望をできる限り引き出せるように努め、自分発信の行動ができる事でご本人の意思を尊重している。また意思疎通困難なご利用者が発した言葉など敏感に察知し思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	帰りたい、外へ出たい思いのご利用者に対しては散歩にでかけたり、ドライブを少しでも希望に添える思いを大切にしている。食事の時間もご本人の食べたい時間にできる限り合やす等し希望に沿った過ごし方ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服や化粧品道具などご本人と一緒に買い物に行き好みの物を購入し日々の生活に充実感を持たれる様にしている。また整容や洋服選定に難しいご利用者はこれまでの生活歴やご家族の意見等参考にして取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	聴きとりや日々の会話で各ご利用者の好みを把握しメニューに反映している。また食事の盛り付けや調理、片づけ等を一緒に行い楽しみを持って食事ができることに努めている。	栄養バランスの取れた配食サービスで調理された食事提供で、利用者も役割分担として食器洗いを手伝うなど、一緒に楽しめる時間となるよう努めている。おせち料理・節分・ひな祭りなど季節を味わうメニューや、誕生日外食などで思い出に残るスペシャルな食事も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事形態、水分は各ご利用者に応じて提供している。一日の水分量は1500ccを目標としている。また栄養不十分のご利用者には経口栄養剤を提供し補っている。各自食事量、水分量は個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行なっている。難しい方は援助で行い、口腔スポンジなどを使用し清潔の保持に努めている。また訪問歯科と連携を図り、指導、助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各ご利用者の排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。またおむつの使用はできる限り避けている。	個々の摂取水分量や活動・ケア内容も生活活動記録に記し、パターンを把握し時間を見計らいトイレ誘導を行なっている。布パンツ使用の利用者も多く、リハビリパンツや適切なパッド対応で自立に向けた支援に心がけている。環境整備や体操を取り入れるなど下肢筋力の維持にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	各ご利用者の排便感覚を把握することで定期的な排便となれるよう努めている。必要とあれば医師の処方のもと適切な薬で補い便秘予防を行っている。食品には繊維物を取り入れ蠕動運動をうながすため日々の軽体操等で体を動かしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	その人にあった入浴方法を行い時間やタイミング等はできる限り柔軟に対応できるようにしており入浴を楽しんで頂くよう取り組んでいる。また法人内研修で入浴介助方法など職員のスキルアップに努めている。	概ね週二回午後からの入浴で、心身状況に合わせた柔軟な対応で支援している。夜などの時間外でも対応した例もあり、入浴介助法（特に新人職員）に対する研修部からの指導も行われるほか、柚子など季節の香りを楽しむ工夫を含め、リラックスタイムとなるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	リビングにソファを多く設置し安 楽な姿勢で休息できるようにし ている。夜間もしっかり眠れる ように日中はメリハリのある時 間をすごせるよう心がけている。 また眠気の強い方など居室な どで休まれる時間を柔軟に設 けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	法人内で主に使用頻度の高い薬 の名称や用法等を明記したもの を各職員保持している。往診時 には主治医に日常の様子につ いて報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ご本人、ご家族の希望に沿うよ う嗜好品を提供している。家事 や料理が好きなご利用者には 積極的にお願いしている。ご本 人の希望に沿い外出やドライブ など行い気分転換できるよう 随時行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	ご利用者の希望による買い物 や外出は個別に対応している。 また急な外出希望であれば可 能な限り行っている。希望に 沿えない場合、後日外出の日 を設けるようにしている。	天気の良い日には玄関先での ティータイム・散歩などで外 気に触れるよう努め、年間行 事として初詣・春の行楽で安 佐動物園へ、秋には紅葉狩り などを楽しんでいる。個々の 誕生日には外食や縮景園へ出 かけるなど、願いを叶える個 別外出も企画し、楽しみなひと 時を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	現在、現金を持っている利用者 はなく立て替えという形で買 い物をしていただいている。希 望されればご本人、ご家族の 同意の下現金を持つことは可 能である。その際には金銭管 理帳を作成し管理、把握でき るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話連絡の希望に応じ事務所での取次ぎ使用が可能である。また携帯電話を所持しているご利用者は自由に電話されている。使い方がわからないご利用者には職員が支援している。また希望があれば手紙などのやり取りが可能である。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには温度計、湿度計が設置しており不快に感じない温度で調整している。また天気の良い日には窓を開け換気をしている。観葉植物や音楽などを流し居心地の良い雰囲気作りを心がけている。	リビングには六角テーブルやゆったりとしたソファが設置され、テレビを観たり、お昼寝をするなど各々が好きな場所で寛げるスペースとなっている。各フロアとも日当たりが良く、童謡などのBGMが流れ、ほっこりと過ごせる微笑ましい雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにはテレビ、ソファがあり誰でも自由に行き来できる。他者と交流できる場であるための環境作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前のご本人が使用していた物や慣れたしんだ思い出の物なども持ってきて頂き以前とさほど変わらない安心し落ち着かれる空間で生活できるように配慮している。	各居室のドアに識別できるプレートや表示を取り付けて見分け易くする工夫がある。個々が落ち着いて静かに過ごせるよう、なるべくシンプルで清潔なスペースづくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活ができる様、各ご利用者にあつた椅子の高さを個別に設置しトイレにはファンレストテーブルを設置してご自身で立ち上がりの補助ができる。各居室までの手すりを廊下に設置し安全に行き来できるよう自立支援につなげている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人の理念と「生活づくり10カ条」を各職員が認識することをご利用者に反映した介護を目指すために努力し実践している。(硬縮のある人・座位が難しい人には 個別にて対応している)		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くのスーパーでの買い物・喫茶等利用者が地域に出る機会を設けるようにしている。また認知症カフェ等に向く事で地域の方々との交流の場を増やせることを実践している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人内の研修や実務者研修に積極的に取り組み事業所自体のレベルアップを目指し地域からの相談や見学に来られた方に、誠意をもって対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、ご利用者、ご家族、地域の他施設、地域包括支援センター等の方々との意見交換、情報交換を行なっている。それを基により良いサービスを提供できるように取り組んでいる。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	認知症介護アドバイザーの資格を有する職員が、認知症サポーター養成講座の講師を務めたり、地区の認知症カフェに参加し様々な意見交換をすることで連携を深めることに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に係る事業所内や外部の研修に参加し重要性について周知徹底している。ご利用者の思いに真摯に向き合いご利用者がいつでも外へ出ることができる環境を整え職員がいつでも寄り添い安全かつ安心となれるケアであるよう努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の研修に参加し細かな気づきを常に報告する体勢を取ることで見過ごしのないよう努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度の理解を深めることで今後における必要性と制度を理解した上で取り組めるようにしたい。(研修等の実施)</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約者を提示し、契約の締結、解約、改定について具体的に説明している。また入居後についてもご家族からの疑問点等誠意を持って対応しご理解できるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者、ご家族様の意見や要望に親身に聞き入れそれを反映できるよう取り組んでいる。また電話時や面会時などご利用者の様子をこまめに報告でき個別の外出や外泊や等の要望にも可能な限り協力し対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議に参加することで法人内としての取り組みを各職員に周知徹底できるようにしている。また各フロアでのカンファで職員の意見交換を行いそれを反映することでより良いサービスを提供できる事に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内で評価基準が明確にあり、職員個々の努力により給与水準や、役職等向上することができるようになっている。(法人内にて研修あり)		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内には教育研修部があり、ご利用者との向き合い方や状態に応じた介助方法などの研修があり、それに参加することで各職員のレベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携を密に行い、情報交換等の連携を図っている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面談時にはご本人の不安や要望を聴くことに重点を置き、またこれまでの生活スタイルを可能な限り維持できるよう協力することをお伝えし信頼関係を構築するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時から細かなモニタリングを行い、ご家族の困っていること、不安、要望をしっかりとお聴きし安心して任せれると思って頂くことで信頼関係が構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	電話や面接時の相談にはご本人やご家族のニーズを把握した上で最善となれるサービスを提案し行っている。また単にこの事業所を勧めるのではなく他のサービスの提案・紹介をし選択肢ができるよう行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護者本位ではなく利用者本位として接しできることは一緒にいどんな時でも寄り添う事を心がけ「共にある」という事を大切に支えあうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居したら在宅へは戻れないという考えをなくし、時には家族との外出や外泊をお勧めし共に支えあう思いを伝えている。また外出時・外泊時の注意点を記入したシートを作成しお渡しすることで安心して外へ出かける事を認識して頂いている。その際できる限りの援助を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の知人・友人の来所時には職員は暖かく出迎え、いつでも気兼ねなく来所できるよう努めている。また馴染みの場所へと外出する際は職員が付き添い対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の関係性を理解し食事の席やコミュニケーションを円滑に行えるよう職員が間に入り関係性を持てるようにしている。また孤立しないよう常に寄り添うことも心がけている。介護度が高く個別支援になりがちだが常に近くには他の利用者がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでに事例はないが今後在宅復帰されるご利用者がいれば安心した生活が送れるよう相談事やフォローできる環境をととのえていきたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者本位の意見を尊重し会話や要望をできる限り取り入れ実現できるよう全職員で取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者に各職員担当をつけ入所に至る経緯や生活歴を把握し、ご本人の話を基にライフストーリーを作成している。入居後に得た情報はそこに付け加え職員全員が周知できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身の状況に対し法人内の状態レベルシートを活用し各職員が現状を把握できるよう努めている。また身体的・精神的に不安のある方は医療と連携することで問題解決ができるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成にはご本人とご家族を交えカンファレンスを行い、意見・要望に沿った計画を作成できるようにしている。また毎月に各担当者によるご家族へのモニタリングを行い意見を伺い現状をお伝えして改善点があればカンファレンスを行いより良い介護計画とされるよう取り組んでいる。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録は全職員出勤時に確認し各利用者の状態を把握できるようにしている。必要に応じて個別記録を参考にしながら改善点を抽出し介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>全体往診・訪問看護・歯科往診など医療と密に連携し介護現場のケアに生かしている。またその他外部からの助言を貰いながら柔軟なサービスを提供できるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の医療・消防・警察と連携を図り、安心して安全な生活が過ごせる様にしていく。また近隣の理髪店やタクシー会社、コンビニエンスストアにグループホームを知って頂いているので緊急時には支援して頂ける関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入所以前のかかりつけ医を把握しておりご本人やご家族の希望に沿った受診が行えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師と連携し24時間の電話連絡ができる。体調変化や急変時には適切な看護や受診がいつでも受けられる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には迅速なサマリーの作成を行い病院側との適切な情報共有ができる様になっている。またその時には看護職員が付き添い急変時の説明をしている。入院時の間もいつでも情報共有ができる体勢にしている。退院時には管理者がカンファレンスを行いスムーズな退院につなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご本人、ご家族から意思を伺い終末ケアを行っている事をご説明している。主治医の判断で終末期ケアへの移行が必要になった場合はご本人、ご家族、医師を交えて話し合い今後の治療方針、ケア内容をご説明し承諾をへた後、終末期ケアに臨んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年一回管轄の消防署に協力していただき救命講習を開催し参加している。法人内の医療、看護より指導、助言を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署職員、防犯会社の立会いの基、年2回避難訓練を実施している。主に初期消火、避難誘導を行い実施後指導、助言を受けている。また防火管理者による日ごろの避難経路や防火点検を行い確認している。各職員が有事には誰でも行動できるよう指導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者の一人ひとりの性格を把握した上で言葉掛けは十分配慮している。トイレや浴室前にはカーテンを設置し外から見えない様プライバシーの配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活を過ごす上ご本人の思いや希望をできる限り引き出せるように努め、自分発信の行動ができる事でご本人の意思を尊重している。また意思疎通困難なご利用者が発した言葉など敏感に察知し思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	帰りたい、外へ出たい思いのご利用者に対しては散歩にでかけたり、ドライブを少しでも希望に添える思いを大切にしている。食事の時間もご本人の食べたい時間にできる限り合やす等し希望に沿った過ごし方ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服や化粧道具などご本人と一緒に買い物に行き好みの物を購入し日々の生活に充実感を持たれる様にしている。また整容や洋服選定に難しいご利用者はこれまでの生活歴やご家族の意見等参考にして取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	聴きとりや日々の会話で各ご利用者の好みを把握しメニューに反映している。また食事の盛り付けや調理、片づけ等を一緒に行い楽しみを持って食事ができることに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態、水分は各ご利用者に応じて提供している。一日の水分量は1500ccを目標としている。また栄養不十分のご利用者には経口栄養剤を提供し補っている。各自食事量、水分量は個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行なっている。難しい方は援助で行い、口腔スポンジなどを使用し清潔の保持に努めている。また訪問歯科と連携を図り、指導、助言を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>各ご利用者の排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。リハビリパンツ・パット使用</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>各ご利用者の排便感覚を把握することで定期的な排便となれるよう努めている。必要とあれば医師の処方のもと適切な薬で補い便秘予防を行っている。食品には繊維物を取り入れ蠕動運動をうながすため日々の軽体操等で体を動かしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>その人にあった入浴方法を行い時間やタイミング等はできる限り柔軟に対応できるようにしており入浴を楽しんで頂くよう取り組んでいる。また法人内研修で入浴介助方法など職員のスキルアップに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	リビングにソファを多く設置し安 楽な姿勢で休息できるようにし ている。夜間もしっかり眠れる ように日中はメリハリのある時 間をすごせるよう心がけている。 また眠気の強い方など居室な どで休まれる時間を柔軟に設 けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	法人内で主に使用頻度の高い薬 の名称や用法等を明記したもの を各職員保持している。往診時 には主治医に日常の様子につ いて報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	ご本人、ご家族の希望に沿うよ う嗜好品を提供している。家事 や料理が好きなご利用者には 積極的にお願いしている。ご本 人の希望に沿い外出やドライブ など行き気分転換できるよう 随時行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	ご利用者の希望による買い物 や外出は個別に対応している。 また急な外出希望であれば可 能な限り行っている。希望に 沿えない場合、後日外出の日 を設けるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	現在、現金を持っている利用者 はなく立て替えという形で買 い物をしていただいている。希 望されればご本人、ご家族の 同意の下現金を持つことは可 能である。その際には金銭管 理帳を作成し管理、把握でき るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話連絡の希望に応じ事務所での取次ぎ使用が可能である。また携帯電話を所持しているご利用者は自由に電話されている。使い方がわからないご利用者には職員が支援している。また希望があれば手紙などのやり取りが可能である。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有スペースには温度計、湿度計が設置してあり不快に感じない温度で調整している。また天気の良い日には窓を開け換気をしている。観葉植物や音楽などを流し居心地の良い雰囲気作りを心がけている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有スペースにはテレビ、ソファがあり誰でも自由に行き来できる。他者と交流できる場であるための環境作りをしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前のご本人が使用していた物や慣れしたしんだ思い出の物なども持ってきて頂き以前とさほど変わらない安心し落ち着かれる空間で生活できるように配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>自立した生活ができる様、各ご利用者にあつた椅子の高さを個別に設置しトイレにはファンレストテーブルを設置してご自身で立ち上がりの補助ができる。各居室までの手すりを廊下に設置し安全に行き来できるよう自立支援につなげている。</p>		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂山根

作成日 H30年11月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域とのつながりや災害時における協力体制の見直し。防災・減災対策についての近隣住民の協力が得られるような取組を行う。	地域での防災訓練等町内会長を交えて近隣地域との協力体制作りへの取組を行う。	10月運営推進会議の議題として挙げ12月に近隣地域のとの共同にて防災訓練を行う。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。